学校だより

磨光

令和６年７月 19 日（金）
三豊市立本山小学校
No.８
発行者：中田　祐二

私が子どもの頃の話。親戚の叔母が、私がしたこと（友達と何をして遊んだか、どこでいたかなど）を見事に言い当てるので、「なんで知っとん？」と尋ねると、「おばちゃんは、何でも知っとんやで。何でも見える眼鏡を持っとるからな。」と返してきました。今なら、友達の家族の方から聞いたのだろうとか、自分を見かけた地域の方が叔母に話したのだろうと推測できるのですが、子どもの私にとっては、まさに「お天道様が見ている」という感覚でした。

17 日、18 日の学期末個人懇談会には、ご多用の中、ご来校くださり、ありがとうございました。子どもたちを巡って、家庭と学校が手を取って見守っていくこと。そして、子どもたちが、自分にたくさんの目が注がれているのを感じること。それが「お天道様が見ている」という感覚なのでしょう。

１学期の宝物

以下、今日の終業式に、子どもたちに贈った言葉です。

１年生は「一番伸びた学年」でした。知らなかったひらがなを覚えました。足し算や引き算ができるようになりました。大きくて深くて怖かったプールでも、水と仲良しになりました。できなかったことができるようになる。そのうれしい気持ちをたくさんお勉強したのが一年生でした。

２年生は「けじめのある学年」でした。授業の引き締まった雰囲気と休み時間などのあどけなさ、二つの魅力がありました。今、教室の後ろに掲示されている図画は、大らかなひまわりの花と、その花びらに乗って楽しそうに遊ぶ虫たちが細かく丁寧に描かれていて、あなたたち自身を表しているかのようです。

３年生は「友達を大事に思う学年」でした。ある朝、私が校門のところで立っていると、数人の子が、小さい声で「お誕生日、おめでとう。」と声を合わせ、繰り返し言いながら登校してきました。今日、誕生日を迎える友達に、教室で「おめでとう」を贈る練習をしているのでした。

４年生は「命の大切さを学んだ学年」です。自然に生えてきたヘチマを大切に育てたこと。担任の先生のご懐妊のこと。それを知った後には、「先生、赤ちゃん、いつ生まれるん？」「男の子？女の子？」「赤ちゃんが生まれてきたら見せてね」など、命の誕生を自分の弟や妹が生まれるように楽しみにし、大事に思って来ました。いろいろな命に触れ、考えたこの１学期間は、かけがえのない大切な時間です。

５年生は、「自分の思いにまっすぐな学年」でした。五色台の宿泊学習で、自分たちの思いを込めて作り上げたスタンツ、自分たちで仕事を分担し、見事にやり遂げた集団生活。そして、自分の思いがしっかりあるからこそ、陸上の大会でも、レーンを超えて失敗してしまったり、決勝に出られなかったりした時に、本気で悔しがっていました。その姿は、勝って喜ぶ表情と同じくらい尊いものに見えました。

６年生は、「どんな時も６年生」でした。１年生が泣いていたら、必ず近寄って声をかけていました。学校で一番年上のお兄さん、お姉さんとして、自分のことよりも下級生のことを考えて行動しました。そんな６年生のお兄さん、お姉さんがみんな大好きです。だから、数日前、６年生のある子が体調を崩して保健室で休んでいた時、たくさんの下級生が、心配してお見舞いに行っていました。

この１学期の私の宝物は、４月に本山小学校に来てから出会えたみなさんの姿です。